

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2015

課題番号：23720319

研究課題名(和文) 徳川将軍家の葬送にみる近世武家社会の権威構造の特質

研究課題名(英文) The Structure of Authority in Modern Warrior-Class Society as Seen Through the Funeral Processions of the Tokugawa Shogun Family

研究代表者

白石 愛 (Shiraishi, Ai)

東京大学・総合研究博物館・特任助教

研究者番号：60431839

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では研究の基礎となる史料蒐集を総合的に行った。国立公文書館には十四代将軍徳川家茂に関して多くの史料があり、その内容も多岐にわたった。宮内庁書陵部から公家側および幕府側の史料、東京大学史料編纂所、国文学研究資料館などから大名側の関連史料を蒐集した。その他、京都大学、国立国会図書館など国内の文書館や大学が所有する史料の調査を行った。以上の史料調査により、閲覧1598点、撮影1403点、複写62点、ウェブ取得55点の成果があった。最終年度は研究成果報告書を出版した。本研究で収集した史料の一部を翻刻掲載し、既存の研究では知られていなかった葬送の詳細な内容を具体的事例として公刊した。

研究成果の概要(英文)：This research is based on a systematic collection of historical documents. Many documents pertaining to Iemochi Tokugawa are found in the National Archives. We have collected documents from court nobles (kuge) and the shogunate, held by the Archives and Mausolea Department of the Imperial Household. From the National Institute of Japanese Literature and the Historiographical Institute of the University of Tokyo, we have gathered documents related to lords (daimyo). We have studied documents held by domestic institutions such as Kyoto University and the National Diet Library. We have examined 1598 items, photographed 1403, reproduced 62 and viewed 55 online. A research report was published. By reprinting part of the documents collected during this research, we have publicized details related to funeral processions, which were unknown hitherto.

研究分野：日本近世史

キーワード：葬送儀礼 日本近世武家社会 徳川将軍

## 1. 研究開始当初の背景

応募者は以前、大名の葬送儀礼として松代藩主真田幸貫の葬送について取り上げ、嫡子である藩主も参加せず、菩提寺の僧侶と家臣のみで執り行われる葬送の実態を示し、本来悼みの表現の場である葬送が、近世後期においては表向きの儀礼を重視するような形骸化したものとなってしまっていたとした（「近世大名の葬送と親族」、谷川愛、『國學院雑誌』、第106巻10号、2005年）。西木浩一氏が数度にわたる町触の風俗統制・俟約令や、『類集撰要』の取締方七カ条の検討を通して、町方における葬礼の華美化や肥大化を指摘している（「葬送墓制からみた都市江戸の特質」、西木浩一、都市史研究会編、『年報都市史研究』第6号、特集宗教と都市、山川出版社、1998年。『江戸の葬送墓制』、東京都公文書館編、都史紀要37、東京都公文書館、1999年）の比して、大名の場合はこれに全く反するもので、形ばかりの参加者の少ない儀礼が執行されていたのである。その一方で、他家との交際には慎重深く配慮していた。卒去してから葬送を執り行うまでに見出すことのできる交際には、大きく分けて遺骸搬送にあたって行われるものと、卒去や葬送・法事の通知とそれに対する見舞いの二つがあった。遺骸の搬送のさい、江戸内で通行する道筋の沿道にある屋敷と、江戸外で通過する他家大名領あるいは旗本知行地への挨拶が必要であった。また、訃報や法事の通知には、両敬であるかどうかが重視された。これに対して、通知を受けた相手も相応の見舞いをする必要があった。これらの交際を担ったのは、留守居など表向きの家臣や御側御納戸役といった側向きの家臣団が、円満な交際を行うべく、繊細に気を遣いながら、それぞれの任務を遂行していたことを示した（「近世大名の葬送と交際」、谷川愛、『国史学』、第193号、2007年）。

大名の葬送に関する研究を進めるなかで、徳川將軍家の葬送については、まとまった研究が多くないことを実感していた。將軍家の葬送は大名の葬送にとっても、規範となっていたことは想像に難しく、かつ江戸時代の武家社会の儀礼研究として欠かすことのできない將軍家の葬送についてあまり顧みられることがなかったことは、むしろ意外でもあった。

従来の將軍の死に関連する研究では、寛永寺と増上寺に分けて研究が行われる傾向が強い。増上寺に係る研究では、発掘成果による墓制や副葬品などの遺物に関する考古学的研究と、遺骨による將軍の身体的特徴の解明など人類学的観点からの研究が専ら行われてきた（『増上寺徳川將軍墓とその遺品・遺体』、鈴木尚・矢島恭介・山辺知行編、東京大学出版会、1967年など）。その後新たな研究成果は未だ出ておらず、鈴木氏による貴族形質の特徴を示すという後期の徳川將軍像は、いまや定説化していると言っても過言

ではない。徳川秀忠・家宣・家継・家重・家慶・家茂の身体的特徴や病歴などを遺骨から詳細に検討しており、各將軍の面影が明瞭になったこの研究が重要な成果であることは明白である。しかしながら、引用文献は殆どが『徳川実紀』と『続徳川実紀』であり、人物像を補完する文献としては偏頗である。史料解釈も外面的であり、史料の根拠に欠ける。一例を挙げるならば、家茂の虫歯を病気見舞い品から甘い物好きに起因するとしているが、当時の儀礼を鑑みれば個人的な嗜好であるとは言い難い。このように、文献史料や儀礼の観点から鈴木氏の成果を再検討する余地は十分にあると考える。

一方、寛永寺における葬儀については、寛永寺の執事長である浦井正明氏が『上野寛永寺將軍家の葬儀』（歴史文化ライブラリー243、吉川弘文館、2007年）を著し、寛永寺における家綱および綱吉の葬儀が取り上げた。同書では、薨去から葬儀までの実態が詳述されている。しかしながら、法要に特化した実態を明らかにしたのみにとどまり、参加した周囲の人の動向や、將軍葬儀の政治的影響などについては簡単に触れられているのみである。この他、寛永寺については2007年から2008年に発掘調査が行われ、近年中にその成果報告書が刊行予定という。両寺の発掘成果が得られれば、葬送についてもより多くの情報が得られるであろう。本研究では考古学的な発掘成果や人類学的な分析結果なども積極的に取り入れ、將軍の薨去の状況や葬地に関する分析、両寺の比較などを文献史料とともに検討して行く。同時に尾張徳川家と紀州徳川家の墓所など既に発掘成果報告書が出ている家との比較考察も行う。

將軍が薨去した社会的影響について、大友一雄氏は1997～1999年度基盤研究(C)「近世の国家的祭祀儀礼に関する基礎的研究」の成果報告書において重要な指摘をしている。將軍の死はまさに全国的に日常生活が規制される国家的祭祀の場として存在したこと、対外的にも対馬藩を介して朝鮮李王朝へ伝達されたこと、また岡山藩を事例に分析した結果、幕府の指示によるものと、藩が独自の判断によるものの二つに大別できる動向があったことなどを成果としてあげている。

一方、伝統社会から近代へ移行していく時期にあって、徳川家茂の將軍としての意義を新たな視点で述べているのは久住真也氏である。家茂は徳川將軍として薨去した最後の人物である。しかも、長州再征中の大坂において、という極めて特殊な状況で薨去した。松平容保は、大坂に仮埋葬することが「御美事」であり、かえって「御徳義」が増すとして松平春嶽に対し尽力要請をしたという（「登坂心覚」、『松平春嶽全集』四）。久住氏によれば、家茂は幕末政局の中で「国事の將軍」の道を歩みつつも、江戸城に存在する「権威の將軍」という側面をもあわせ持った最後の將軍であり、死してなお「国事に殉じた將

軍」としての役割を期待されたという（『幕末の將軍』、講談社選書メチエ、2009年）。

本研究では、これらの先行研究をふまえたうえで、將軍の薨去から葬送に至るまでの動向をより具体的に詳細に検討する。將軍の葬送がいかに儀礼化し、変容していくのかを明らかにすることにより、武家社会の権威構造の特質に迫ることができるものと考えている。さらに、本来権威の表象の場である葬送という場が、幕末期の動乱のなかで、どのように変化したのかを明らかにしていく。幕府や藩で改革が行われ、無駄な儀式を省略された一方で、古来の儀礼復興も盛んに行われた時代における、將軍の葬送の位置づけを考察する。

## 2. 研究の目的

近世武家の葬送儀礼を明らかにするなかで、本研究は歴代徳川將軍の葬送に関する研究である。將軍の葬送は服忌や鳴物停止など全国的に日常生活が規制される国家的祭祀の場として存在し、將軍の権威を示し、家臣との関係を再確認する場であった。本研究では、將軍の葬送が儀礼化し変容していく過程を見通して行く。そこからみえてくる近世武家社会の構造の特質ならびに変容の一端を解明することを目的とする。同時に、増上寺に埋葬された將軍の遺骨による人類学的成果を、新たに発掘された寛永寺の成果と併せて再検討する。

研究期間内の達成目標としては、歴代徳川將軍の葬送について、本研究では特に葬送が儀礼となる端緒となった四代徳川家綱から幕末の動乱期に薨去した十四代家茂までの葬送の実態を中心に分析する。死から葬送までに行われる様々な儀礼や手続き、葬送の行列などの実態を詳細に明らかにする。同時に周囲の対応にも注目し、天皇家、葬送に参列した大名、関与した役人、警備体制など、將軍の死と葬送をめぐる人々あるいは家の動向を、様々な立場や角度から分析する。家茂の葬送については、薨去した特殊な情況から、政治動向を踏まえて將軍の死をいかに演出したのかを考察する。考古学的・人類学的な成果も積極的に取り入れながら、その再検討も行う。家定・家茂に関しては、当時日本に滞在していた外国人による記録にも注目したい。

学術的特色・独創的な点および予想される結果と意義としては、徳川將軍家の権威構造の特質を、国家的祭祀である葬送の実態を丁寧に分析することが、本研究の特色である。葬送という將軍の威光を示すとともに、家臣との関係の再確認の場である儀礼を、通史的に検討することにより、武家社会の構造の特質ならびに変容の一端を明らかにすることができる。幕末期においては將軍の死が単に儀礼史に止まらず、幕末政治史にも波及する問題であり、儀礼と政治との双方向からの研究の一進展になり得る。

他方で増上寺將軍墓からの考古学的・人類学的な研究成果により定説化している將軍の身体像を史料の側面から再検討することにより、新たな將軍像が構築できる可能性がある点で独創的と考える。本研究の最中に発表予定の寛永寺將軍墓発掘成果をいち早く取り入れることにより、増上寺・寛永寺双方の葬送の比較検討が可能であり、最新の研究成果が得られるものと考えている。

## 3. 研究の方法

国立公文書館所蔵内閣文庫を中心とする幕府側の史料、明治大学の内藤家文書や国文学研究資料館の真田家文書など大名側の史料について、史料調査および蒐集を行う。その他国内の文書館や大学が所有する史料も調査する。史料調査先として、東京大学附属総合図書館、同史料編纂所、徳川林政史研究所、京都大学、学習院大学、茨城県立歴史館、名古屋市蓬左文庫などを考えている。

史料調査の手順は、史料の閲覧を行い、必要に応じて可能な場合は撮影を行う。撮影不可の場合は、複写の申請をする。史料調査の際に、研究協力者1~2名程度参加してもらい、短期間で調査が終わるよう工夫する。

同時に佐竹家文書の『国典類抄』、井伊家の『公用方秘録』など既刊史料も積極的に活用する。

史料蒐集と同時に必要な史料は翻刻しながら研究を進める。研究協力者には必要に応じて、助言を求め、史料調査および翻刻作業に協力してもらう。研究の最終的な成果は研究成果報告書にまとめて刊行する。

## 4. 研究成果

本研究では研究の基礎となる史料蒐集を総合的に行った。国立公文書館所蔵内閣文庫の幕府側の史料、東京大学史料編纂所の宗家文書や国文学研究資料館の真田家文書など大名側の史料、宮内庁書陵部の公家側を中心とする史料について、史料の調査をしたうえで研究に必要な史料については、撮影あるいは複写という形で蒐集を行った。

国立公文書館所蔵内閣文庫の史料を調査・蒐集することに最も重点を置いた。事前調査により、内閣文庫には歴代將軍の葬送に関する史料として、家綱の「厳有院殿贈大相国公御葬送日録」、「厳有院殿御葬送並御法事日録」、「延宝八年御葬送記」、綱吉の「常憲院様御新葬留」、「常憲院様御送葬一件」、吉宗の「有徳院殿御送葬記大御所様御由緒御事跡」、「有徳廟葬式之記」、家重の「惇信院様薨御一件」、家斉の「文恭院殿御他界之記」、家定の「温恭院様御新葬諸御用留」、「公方様薨御二付御達一件」、「安政五年午御葬送御法事御用掛御代官初筆書拔」などがあると判明した。特に、家茂に関しては薨去から葬送まで200点以上にのぼる史料があり、その内容

は、薨去が通知された後に大名から出された悔やみ状、出棺・葬送御用・法事惣奉行の老中松平周防守康英と老中井上河内守正直との書状のやりとり、「御尊骸御葬送之儀二付於大坂表被仰出候事書付」、「昭徳院様御葬礼御用仕様帳」、「公方様崩御二付御葬送・御出棺等御用向二付覚」、「家茂尊骸増上寺二御葬送ノ旨被仰出二付一札」などの覚書、葬送の際の警備を担当した役人や、増上寺家茂廟の普請御用に当たった役人から差し出された書付など多岐にわたった。これらの史料を閲覧し、複写あるいはその場で翻刻するなどして、より多くの史料蒐集に努めた。

大名家側の史料として、東京大学史料編纂所の宗家文書に、五代將軍徳川綱吉から十四代家茂までの薨去から將軍代替までを記録した一連の簿冊があった。また、人間文化研究機構国文学研究資料館には真田家文書・蜂須賀家文書などから関連史料を蒐集した。特に真田家文書には「大御所様御不例一件書留」(家斉)、「公方様薨御一件帳」(家慶)といった一件帳の他にも、触の廻状が多くあり、大名間での情報伝達について知ることができた。その他、京都大学(徳川時代書留集の内「將軍宣下薨去一件帳」、「徳川家斉薨去一件帳」)、秋田県立秋田図書館の佐竹西家文書の「右大臣征夷大將軍源家綱公薨御 四拾歳其次第覚書日記」や佐竹家文書、東山文庫などの史料調査を行った。『公用方秘録 史料』(彦根藩資料調査研究委員会編、彦根城博物館叢書七、彦根城博物館、2007年)や秋田県立図書館編『国典類抄』凶部(秋田県教育委員会)などの既刊の活字史料も利用した。

宮内庁書陵部には「昭徳院凶事留」、「文恭院殿薨去並東叡山下向記」など公家側の史料に加え、本報告書に翻刻掲載した「徳川綱吉薨去記」、「有徳院薨去覚書」といった重要な史料を所蔵していた。

その他、国内の文書館や大学が所有する史料も調査した。国立国会図書館の「御新葬一件」や「大御所様御葬送の記」など家斉の葬送に関する史料、茨城県立歴史館一橋家文書、埼玉県立文書館などにおいて調査を行った。当初予定していた明治大学内藤家文書の「文恭院様薨御二付一件書拔下書」、「公方様薨御被遊候二付増上寺御参詣ヨリ御代替迄下調」など、名古屋市蓬左文庫の尾張徳川家文書、学習院大学の「家茂公薨去」、東北大学狩野文庫の「浚明公薨去紀事」は調査が叶わなかった。

以上の史料調査により、総数で閲覧 1598 点、撮影 1403 点、複写 62 点、ウェブ取得 55 点の成果があった。

研究の成果として、最終年度に研究成果報告書『徳川將軍家の葬送にみる近世武家社会の権威構造の特質』を刊行した(2016年3月)。本研究で蒐集した史料のうち、重要な史料 104 点を翻刻掲載し、解題を付した。徳川將軍家の葬送の基盤となった四代家綱、側用人の登場により「表」と「奥」の役割分担が自

明となった五代綱吉、葬送の簡略化が行われ以後幕末までの先例となった八代吉宗、原史料が多く残されているため詳細な分析が可能であった十四代家茂の四人の葬送を取り上げた。葬送惣奉行に注目し、その具体的な役割について検討した。既存の研究では知られていなかった葬送の詳細な内容を具体的事例として公刊し得たと考える。

考古学的成果に関する報告書等の検討も行う予定であったが、この点については十分に検討できなかった。既刊の増上寺に埋葬された將軍との比較検討も含め、今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1 件)

白石愛、東京大学総合研究博物館、徳川將軍家の葬送にみる近世武家社会の権威構造の特質、2016、193

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

白石 愛 (SHIRAI SHI, Ai)  
東京大学総合研究博物館、特任助教  
研究者番号：60431839

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

根岸 茂夫 (NEGISHI, Shigeo)

佐宗 亜衣子 (SASO, Aiko)

白石 烈 (SHIRAISHI, Tsuyoshi)

早乙女 牧人 (SAOTOME, Makito)

田中 丈敏 (TANAKA, Taketoshi)

岡谷 成康 (OKAYA, Nariyasu)

太田 和子 (OTA, Kazuko)

川村 由紀子 (KAWAMURA, Yukiko)

番場 夏希 (BANBA, Natsuki)

千田 豊子 (SENDA, Toyoko)

谷川 節子 (TANIKAWA, Setsuko)